

愛宕中学校の閉校に寄せて



龍ヶ崎市長
萩原 勇

このたび、城南中学校との統合による「龍ヶ崎中学校」の開校に伴い、地域とともに歩み愛されてきた愛宕中学校は、この61年の長い歴史に幕を下ろします。

愛宕中学校は、昭和の大合併後の昭和36年に龍ヶ崎中学校から分離し、馴柴中学校を統合して創立されました。令和2年には創立60周年を迎えた市内で最も歴史と伝統のある学校であり、今日に至るまで多くの卒業生を送り出し、地域・社会に大きく貢献する人材を輩出してきました。

これまでの歴史を築き上げてこられた歴代の校長先生並びに教職員の皆様をはじめ、本校に関わっていただいたすべての皆様に深く感謝を表しますとともに、統合に至るまで、子ども達のより良い教育環境の充実に向け、熱心に話し合いを重ねていただきました地域の皆様、PTAや保護者の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

生徒の皆さんは、新しい学校生活がまもなく始まります。新たな環境で多様な経験を重ねながら、学校生活がより一層充実したものになるよう願っています。

愛宕中学校は閉校となりますが、統合先においても良き伝統が受け継がれ、新たな歴史を築き上げていくことを楽しみにしています。そして卒業生の皆さんは、この母校を誇りとして、激動する社会にあっても、たくましく人生を切り拓いていかれるものと信じています。

私たち大人は、責任を持って、子ども達の未来のため何が最善かを考え、新しい学校づくりに向けた検討を進めていかなければなりません。本市におきましては、今回の統合の目的でもある、より良い教育環境を実現するため、教育委員会と連携し全力を尽くしてまいります。また、将来何らかの形で市へ携わってもらえるような、郷土愛に満ちた子どもを育成したいと考えていますので、引き続きのご理解とご協力をお願いします

最後になりますが、閉校を迎えるまでの61年間、永きにわたって愛宕中学校を愛し、支えてこられたすべての皆様に心から敬意と感謝の意を捧げますとともに、卒業生の皆様方の今後のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ結びといたします。

愛宕中学校の閉校によせて

龍ヶ崎市教育委員会教育長
平塚 和宏

昭和 36 年に龍ヶ崎中と馴柴中が統合し愛宕中学校が生まれてから 60 年、その間に、校舎の合併、八原中学校の統合、城西中学校の分離、城ノ内中学校の分離と、激動の歴史を築いてきた中学校であります。同時期に開校された城南中学校と合わせて長い間 2 校体制で龍ヶ崎教育を支えてきてくれました。時代は令和になり、社会情勢の急激な変化もあり、今般城南中学校との統合計画が進み、新制龍ヶ崎中学校が開設される運びとなりました。

私自身は教員になっての初めての勤務が稲敷郡の中学校であり、部活動や研修会等で愛宕中学校を訪問する機会も多くありました。長い坂道を上り、樹木を通り抜けると、西の方面に富士山の姿が目に入る景色は今でも鮮明に記憶しております。狭く複雑な校地の中に独特の校舎があり、大規模校独特の壮大な空気感を感じることができました。

その後、縁があって、龍ヶ崎小学校や龍ヶ崎西小学校で 11 年間、そして教育委員会で 12 年間の勤務ができ、愛宕中学校のこれまでの歴史を側面から見続けることができました。学区や通学距離の問題もあり、6 つの小学校区から児童が入学してくる愛宕中学校は、新しい友達ができる絶好の出会いの場でありました。そして、人と人が切磋琢磨して育っていく学校であると今でも思っております。

愛宕中学校において特に印象に残るのは、盛んな生徒会活動であります。龍ヶ崎西小学校勤務の平成 19 年度には愛宕中学校生徒会と龍ヶ崎西小学校・北文間小学校児童会が力を合わせてのいじめ撲滅のための「リーフリボン運動」を展開することができました。生徒会役員が小学校に出向いての趣旨説明や手作りリボンの配布、また、小学生が愛宕中体育館に出向き「リーフリボンフォーラム」を小中学校合同で行ったこと、今でも鮮烈に記憶しております。

この校風は今でも色あせることなく力強く息づいており、誇りと愛着を持って常に伝統を大切にしながら前進しようとする学校風土は気持ちのよいものであります。惜しまれながら閉校になりますが、この地で培ってきた精神は、新しい学校でも力強く根付いていくものと信じております。これまでの卒業生や先生方、地域の方々のお力添えに心より敬意を表するとともに、またこの地において素晴らしい学校、力強い教育風土が生まれることを心よりお祈りいたし、閉校にあたっての挨拶とさせていただきます。

愛宕中学校の閉校に寄せて



校長
黒澤 智

本校は、昭和36年に竜ヶ崎中学校の一部と馴染中学校が統合し、竜ヶ崎市立愛宕中学校として開校しました。さらに、昭和40年には八原中学校と統合し、地域の拠点として輝かしい歴史と伝統を築いてきました。

これまで歴代職員が手を携え、途切れさせることなく繋いできた伝統のある襷ですが、少子化の影響を免れることはできず、今年度末をもって龍ヶ崎市に返還することとなりました。菊花に双龍が描かれた校章で皆様方に親しまれ、愛され続けてきた愛宕中学校の歴史に終止符を打つのは、とても寂しく、万感の思いです。

創立から61年の歴史を刻む中で、幾多のすばらしい人材を輩出しました。そして、地元はもとより全国各地で、しかも多様な分野で活躍されています。中でも、東京オリンピック2020のサッカー競技に本校出身の中山雄太選手が出場し、チームの大黒柱として活躍するとともに、愛宕中学校の名を世界に発信してくれました。残念ながらメダル獲得とはなりませんでした。本校の閉校を惜しむかのような躍動ぶりでした。

本校には、愛宕の山に咲き誇る「あじさい」にちなんで定められた「あかるく じしんをもって さわやかに いきいきと」活動するという目標があります。これは、愛宕中生の精神的な支柱として、また、職員の教育活動を支える方針として引き継がれ、今もなお在校生や卒業生の心の中で脈々と受け継がれています。

さて、間もなく「Society5.0時代」が到来し、社会の在り方が劇的に変化すると言われています。激動の世の中になると予想されますが、生徒の皆さんには「あじさいのモットー」と「自律と感謝の気持ち」を忘れることなく、愛宕魂で豊かな人生を切り拓いていってくださることを期待しています。

卒業生の皆様、そして保護者・地域の皆様方には、これまで長年にわたり、本校への多大なるご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。令和4年4月には、統合される両校の歴史と伝統が融合し、新生龍ヶ崎中学校として生まれ変わりますが、愛宕中学校が皆様方の心の故郷として存在し続けてくれることを心から願うばかりです。

結びに、閉校にあたりご尽力いただきました龍ヶ崎市教育委員会並びに統合準備会の皆様、そして本校の閉校記念事業実行委員会の皆様方に衷心より感謝申し上げ、閉校に寄せての挨拶といたします。

閉校に寄せて

令和3年度PTA会長
大西 龍

令和4年3月13日をもって、愛宕中学校の閉校を迎える運びとなりました。これまでに多大なるご支援、ご協力をいただいた大勢の皆様方に深く感謝申し上げます。数年前に閉校のお話を伺い、心に穴が開くような気持ちではありましたが、これまでの愛宕中の歴史を築き上げてきた皆様の想いを一心に受け止め、より一層気を引き締めて、本年度のPTA活動に邁進しようという想いで取り組んで参りました。

さて、昨年度から本年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校生活に大幅な制限がかかりました。学校運営を担う教職員の皆様においては、授業一つを進めることに関しても、大変な労力をかけてきたものと存じます。生徒の皆さんも、本来であれば日々の活動、あるいは行事や部活動などにおいて学校生活を謳歌されていたかと存じますが、様々な制約の中、相当数の方が口惜しい思いをもたれているものと推察いたします。PTAとしての活動も大幅な制限がかかり、生徒の皆さんを十分に支援できなかったことを心苦しく感じております。

そのような状況下においても、生徒の皆さんは試行錯誤をし、あじさいカップをはじめとする各行事において、実施するための方法を模索し、自主性をもって実現に繋げていらっしゃいました。その不断の努力と、最後まで諦めない精神には頭が下がる思いとともに、この難しい世の中でも、粘り強く突き進むその姿には、私の方こそ多くのことを学ばせていただきました。

愛宕中学校は、地域の支えとなり大切な役割を担ってきた学校です。また、日々の先生方の努力や情熱、地域の皆様方の惜しみないご協力により、これ程素晴らしい教育環境は他に無いものと感じております。それに加えて、愛宕中の伝統や教育理念、何よりも生徒間で受け継がれてきた自主性は、何事にも代えがたい、非常に価値のあるものと考えております。統合後、城南中学校の生徒の皆さんともぜひ共有し、より良い風土と歴史を形成していただければ幸いです。

最後になりますが、これまで愛宕中を支えていただきました地域の皆様、本校に関係した全ての皆様方の今後の御多幸をお祈りいたしまして、PTA役員、会員を代表し、惜別のご挨拶といたします。誠にありがとうございました。

「閉校に寄せて」



令和3年度生徒会長
川口 紗英

愛宕中学校が幕を閉じるまで残り僅かとなりました。生徒の皆さんだけでなく、保護者の皆様や私達を温かく見守ってくださる地域の方々の中にも、愛宕中出身だという方は多いのではないのでしょうか。それだけ沢山の人が関わり、愛されてきた母校が閉校してしまうのは、とても名残惜しいです。

私は約3年前にこの学校に入学し、支えてくれる沢山の人達に出会うことができました。それは「あじさい生徒」という一つの生徒像を目指して、あかるく、じしんをもって、さわやかに、いきいきと生活しているからこそだと思います。その中で「愛宕中最後」の生徒会長を任されることになり、代々先輩方が築き上げてくださった愛宕中を纏めるという役割を、186人の生徒の皆さんと共に果たしたいと考え、今年度のスローガンを「纏～smile and thanks～」に決定しました。特に、愛宕中だけにしかない伝統を纏めていくことが最も重要だと考えています。

その一つがリーフリボンキャンペーンです。これは、いじめ撲滅を実現させるために先輩方から受け継いできた活動です。賛同した生徒には、緑のリボンを配付し、名札につけてもらっています。正直、このリボンで本当にいじめが無くなったかと聞かれると、私は100%自信を持って「はい」とは答えられません。周囲に気付かれず一人で抱え込んでいる生徒も少なくないでしょう。だからこそ、この活動を通して少しでもいじめに対する意識を持ってもらい、いじめのない学校だと堂々と言えるようにしたいと思い、今年度もキャンペーンを行いました。是非リーフリボンを持っている生徒は、リボンをもらった意義を改めて考えてみてほしいと思います。

もう一つは、愛宕中伝統の多くの行事です。これらは残念なことに閉校を目前にした昨年度からほぼ全てが中止、縮小となっています。特に私達3年生は、自分たちの活躍の場が減ってしまっただけでなく、昨年度卒業された先輩方の大きな背中を目にする機会や、後輩たちに愛宕中の伝統を継承することもできず、やるせない気持ちで一杯です。その様な中でも、今できる最善を考え前進していくしかありません。ほんの少し先の事を見通すもの難しい中ではありますが、愛宕中学校のラストを誰もが納得できる形で纏められるよう、真摯に生徒会活動に向き合っていきます。

最後になりましたが、愛宕中生として過ごせる一日一日を大切に、愛宕中への感謝を常に心に持ちたいと思います。